

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292800057		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 花水神 月の海		
所在地	千葉県鴨川市東江見395-2		
自己評価作成日	平成23年11月20日	評価結果市町村受理日	衛星24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成23年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとしてスタートして3年目に入り、個別ケアを大切にしていこう、と取り組んだものの振り返り作業を行うと、何かが足りない、というある課題が見えてきた事が明確になり、その事が目標に変わりました。利用者様の思いに本当に寄り添っているか・・・利用者様の心の声に耳をすますと、これでよしとは簡単に思えないところです。そこで本年度は「主体は利用者様である」を全員で心においています。当然な事ではあるのですがひとりひとりの職員が大切な事として捉えることで、日々の接遇が変わりました。特に今は好季節にて外出支援(散歩)を行ったり「歩きたい」という希望があれば共に歩き、「トイレに行きたい」希望に何度も対応してオムツからパンツに変わるなど職員の利用者様主体にした接遇の成果がひとつひとつ見えてきた事で、「何かが足りない」といった課題を全員で取り組み、共有できている実感があります。

1. 鴨川市の南部、江見の海が見渡せる景観に恵まれた小規模多機能施設と併設の施設です。
2. 利用者は日中は居室に籠ることなく、大部分を居間兼食堂ですごし、歌や体操で皆で賑やかに過ごしています。
3. リハビリに力を入れており、入居時寝たきりであった人が日中座って過ごせるようになったり、オムツを使用していた人がトイレでの排尿に誘導を続けることでリハビリパンツに改善したりと、効果を上げ家族からも喜ばれています。
4. 運営母体は近くの病院なので、いざという時何かと安心感があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との触れ合い大切にして入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思えるサービスに専念することを理念とし共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をホーム内3か所に掲げています。本理念は日頃のサービスにそのまま結びついているものなので、職員も良く認識しており、実践につなげている事が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に未加入ですが当施設の行事に歌や踊りの訪問をきっかけに日常的に訪れて下さり地域の情報を知らせて頂くなど情報交換により一歩踏み出した状況です。	ホームの七夕祭り、納涼祭、クリスマスに地区の老人会やボランティアの人達も参加し、踊りや歌、フラダンスを演じてくれ、利用者も一緒に楽しんでます。地区の祭礼では、商店が店の前に見物席を用意してくれたり、散歩の途中での交流も進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に地域のボランティアや老人会の方々の訪問による交流の機会に入居者と会話やお茶を共にしながら触れ合い、お互いに良い交流となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際、現況報告を行い、出席頂いた方々からの意見やアドバイスをケア会議に出して、再検討している。特に最近では地域の方より、安全な避難経路、避難場所の情報提供を頂き、心強く思っている。	地域包括支援センター、地元江見地区の老人会代表、区長、社会福祉協議会、民生委員の外部メンバーを加えほぼ2か月に1回の割合で開催しており、民生委員をはじめとした多くの情報を持つ方達から貴重な意見を得ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の現況についてや介護保険についての疑問等を市へ問い合わせや報告を行う際、適切な対応をして頂いている。	各種課題ごとに市の福祉課、介護保険係の担当と連絡を取っているだけでなく、地域包括支援センターにはいろいろと相談にのって貰っています。同センターは運営推進会議に職員や実習生を派遣し問題解決に協力してくれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」という意識を全員で周知している。安全の為に考えての拘束も絶対にやってはいけないという事を研修で学び、全員で再度意識の確認をしている。	日中玄関は施錠せず、チャイムの音で人の出入りを把握しています。利用者の安全のために、玄関の方に向かう利用者があれば職員が常にフォローするようにしています。職員は身体拘束についての正しい知識を有している事が窺えました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃より職員の心身の状態を把握する様にしている。自己コントロールが困難な場面等をケア会議や朝夕の申し送り時に話し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の資料やパンフレットを回覧し、制度を理解し必要性についても話し合う機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や同意書には必ず目を通して頂き、説明して納得の上、署名、印を頂き、ほか質問等随時受ける様、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの希望や思いは、日々の生活のなかから受け止め、ご家族からは随時日常の心身の状態報告の際、要望等を伺い、出来る事から行う様にしている。	家族会はありませんが、家族の来訪時に事務室で意見を交換する他、前回の外部評価の結果を踏まえ、家族との連絡ノートを設け、率直な意見の引き出しに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や朝夕の申し送り、その他の機会でも意見や提案があれば皆で話し合う環境作りを行っている。	年1回職員と個別面談を行い、自由に意見を聞く他、月1回のケア会議で率直な意見交換をし、運営の改善につなげています。例えば、居間が手狭なので車いすは移動の手段として使用し、普段の生活は、原則椅子で過ごすようにした例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の個性を生かし、働く意欲が持てる職場環境作りに努めている。仕事の成果を認め目標に向かう気持ちが持てる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の持ち味が生かせる研修への参加だったり介護福祉士資格取得の研修、受験に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体である病院において全職員を対象にした勉強会や管理者の会を設けて業務改善会議を行ったり、地域のグループホーム間の交流があり情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆったりとした空気の流れるなかで、寄り添い、何でも話して良い、という気持ちで持てるような環境作りと接遇に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の報告を行う際や面会の時に少しの時間でも話す機会を作り、ご家族との会話からいろいろな思い等を伺い、関係の構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何をどのような気持ちで、何を望まれているかを察するように努めているが、気づきがあったら確認して必要な事を了解を得ながら行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月の海のカラーとして「共に生活する・・・」という言葉掲げているのでグループホームとしてスタートして以来、気持ちは継続している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様宛へのお便り文の中にご家族の皆さんと職員、地域の方々、関わりのある方が「協働して・・・」という内容でこちらの気持ちを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向に添い、ご家族の協力を得ながら可能な限り交流が出来る様支援している。	入所前迄住んでいた地域には馴染みの知人・友人がおり、時折施設に面会に来たり、ドライブに出かけた際は住んでいた家の近くを通り、「変わっていないね」と懐かしそうに話す姿が見られる等、馴染みの人や場所が途切れないよう継続的な支援がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おひとりおひとりの心の動きだったり、個性を把握して、関わりを強要することなく、「共に生活する」心地良い居場所になる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族が野菜や衣服、タオル等を持参して下さり、皆さんと一緒にお茶を飲みながら思い出話や近況を話される等して交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の発言、動作、心の動きを理解し、思いを実現すべきと常に考えているが捉え辛い面もあり一方的なこちらの思いすごしになってはいないかと考えることがある。	日々の関わりの中で、声をかけ、言葉や表情に関心を払い、把握するよう努めています。意思疎通が困難な方には家族を交えて検討し、馴染みの知人・友人が面会に来てくれるようになった例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会の際や入居者様とお茶の時間等会話のなかからの情報収集を行い、行動や感情の動きの根拠に気づききっかけになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の動きひとつひとつが生きる力であり出来るという実感が希望へと心が動く解釈し、些細な変化や様子を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議では個別に、課題と改善点について話し合い、日中の過ごし方や対応の仕方、又気分転換のためのケア方法の提案があれば話し合い取り入れている。	課題となることをケア会議で話し合い、介護計画の作成に活かしています。原則として6カ月ごとに見直しをしていますが、状態に変化があれば直ちにケア会議を開き現状に合うよう見直しています。その結果顕著な改善例が見られます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の記入方法を工夫したり情報交換や現在の状況を確認し合い、見直し等を、必要に応じて行い計画書に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの心身の状況変化に応じて対応するように努めている。生活状況の変化にもご家族と共に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩を日課としていつも楽しみに職員と出掛ける入居者様が地域の方のご好意により休憩の声掛けをして下さり、お茶のサービスを頂き、庭で犬猫に触れる機会もあり晴天の日の楽しみと支えられている温もりがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院である事や、医療連携を行っている事で緊急時の対応も心強く感じている。 定期受診、往診により入居者の状態を把握してもらっている。	月1回の定期受診・遠方の眼科受診等は家族の依頼を受け可能な限り同行しています。結果は処方箋をコピーして送ったり、医師の指示等がある場合は電話で家族に報告しています。複数の医療機関と情報のやり取りを通して、関係を築き適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により担当看護師の定期的な訪問を受ける事で状況の共有が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域生活連携シートを活用して医療機関への情報提供を行ったり、不足な点は文書や電話等で状況の把握や情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が安定している時から状況の変化や重度化した時、緊急時、また終末期にどの様に行うかをご家族と話し合う機会を設けている。	運営母体である近くの病院から1週間に1回定期的に看護師が来て排便、高血圧・口腔ケア・義歯の相談にのり、必要時は医師へ報告しています。記録は一言メッセージに残しています。看取りの指針や同意を得ており、最近も看取った例もあります。いざというとき医療連携体制がとられている為、安心感があると職員は話しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時の対応方法を掲示してあり日常的に確認出来るようにしてある。看取り介護の急変時に活用出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っている事や今年の3、11の地震による津波警報に於いて2泊3日、全員で避難を行った事で必要な事、やるべき事が確認できた。	毎年自主避難訓練の他、消防署と地元消防団の参加を得て夜間の消防訓練も実施しています。スプリンクラー、消火器等必要な防火設備は十分です。万一の災害に備え最低限の備蓄も行っています。	大震災等広範囲にわたる災害の場合は従来よとされていた以上の備蓄が必要と考えられるようになりました。備蓄の充実に向け内容及び量の見直しが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日、利用者様と共に食事をしたり会話をし生活を繰り返すなかで時として心ない言動で気分を損ねる場面があり接遇を見直す必要を感じている。	人前で本人を傷つけかねない命令口調で大声で注意してしまう一部の職員がありますが、対人サービスに携わる者として日々の関わり方を管理者は点検しており、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応の徹底に努めています。やさしい声掛けでトイレ誘導している職員も見受けられました。	プライバシーを守り通すことは難しいとは思いますが、運営者、管理者、常勤職員、パート職員も含めた全職員がプライバシーについて常に具体的に確認し合うことが望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とのコミュニケーションはとれており意志の表出が出来る環境づくりに努めている。 希望や思いは日頃から受け入れる体制が出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその時の気持ちに寄り添う様にしている。希望があれば実現するための方法を考えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や、朝食後の髭剃りの習慣を生活の流れとして継続するための支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べること」が最大の楽しみであるという利用者様の好みや希望を取り入れ、懐かしい食材やメニューを話題にしている。利用者様と同じテーブルでお話しながら食事をしている。	調査訪問時の昼食は花寿司を職員が準備していました。好みのもを聞いてその日の献立が赤飯に変わることもあります。また職員と一緒に食事を楽しむ雰囲気づくりも大切にしています。テーブル拭きを手伝っている利用者もいますが、大半は椅子に腰かけたまま食事を済ませています。	施設での暮らしの一場面に調理が挙げられると思います。利用者の中には野菜の皮むき等見守りや支えがあれば、力を発揮できることがあるようです。前向きに、気持ちや意思をひき出せるよう声掛けや工夫が望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握して、きざみ食や柔らかく配慮したり、食事がうまく摂れない場合は側にて声掛けや手助けを行いバランス良く完食できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは夕食後に集中して丁寧に一人ひとり職員の見守り、介助にておこなっている。 歯ブラシは日光に干し常に乾燥させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を業務の柱として考え、一歩手前のケアになる様、常にテーブルの中心に置き確認している。排泄パターンを把握しおむつからリハビリになり失禁がなくなった方がいる。	チェック表で排泄パターンを職員全員が把握しています。自宅では寝たきりでおむつ使用だった方もトイレ誘導の声掛けをして、尿取りパッドが外れたり、夜間のみおむつ屋間はリハビリパンツになり、顔の表情が良くなったと家族から喜ばれている例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤を処方されている方もいるが、食材に食物繊維の品を取り入れたり、メニューの工夫を行い、また朝のラジオ体操も気分転換に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ入浴日をきめてはいるが、声掛けにて気分がすぐれない場合は時間をおいたり、健康チェックを行ったあと再度の声掛け、または翌日に等柔軟に行っている。	職員のローテーションの関係で週2回～3回と決めています。入浴を拒む利用者には対応を工夫し、体調の悪い時・便汚染した際は都度適切に対応しています。週4回足浴を実施、身体が温まり、安眠できると好評で、その人に合わせた支援を試みていることが窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人からの希望があれば昼食後のお昼寝をして頂くこともあるが一時間程でお茶の誘いをしている。夜間良眠と繋がる為の環境に配慮する様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診の際、心身の状況報告を行い、主治医看護師により内服薬の量の変更などを考慮され指示やアドバイスを頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしのなかで、その人が本当に望んでいることをひとつでも実現できたと、考えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員ではありませんが日常的に好天気になると外出の希望があり、職員と一緒に毎日のように出掛けている。ご家族の協力を得て定期的に食事や買い物の外出を行っている。	過去に犬を飼っていた方は、近所の家に行き抱かせてもらう・漬物・お茶をいただいて帰る等地域と顔なじみの関係になっています。歩行困難な方は好天の時は車いす利用で庭に出て海を眺めたり、海岸を散歩するなど五感刺激が得られるよう積極的な外出支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との了解の上、お金はお預かりしており毎月、収支をお知らせしているがご本人にもこちらでお預かりしていることを伝えてある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことは難しい状況だが、ご家族の事を気がかりになり心が落ち着かない場合は、声掛けし電話にて会話できる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南東にあるリビングは彩光良く2階ということもあり明るいですが、リビングに並行して浴室、トイレがあり時々、不快な臭いに困惑する場面があり、何とか換気する方法で対応している。	居間兼食堂の全面及び右側面は大きなガラス張りで明るく、海や漁港の眺望が開け、居心地良い空間です。日中は利用者全員居室に籠ることなく、居間で唄や体操等で賑やかに過ごしています。トイレは24時間換気扇を回す等不快な臭いのせぬよう配慮しています。水槽にメダカを飼っており、壁面はクリスマス等季節感のある飾りつけをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんど日中をリビングで過ごしているが、ひとりになりたい方は自室に戻り、しばらくして再度皆さんと交流している。テーブルの席は様子観察して配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居時に馴染みの品や大切に思っている写真等、また食器等についてもご自宅で使用されていた品を継続して使って頂いている。	持ち込みは原則自由で、テレビ、テーブル、椅子、箆笥、置物等それぞれ自分の好みのものを置いています。また、家族が写真や絵等本人のお気に入りのもので壁面を飾ったりして居心地良くなるよう工夫していますが、入居期間があまり長くない人が多いので、比較的簡素な居室が多いようです。	居室の入口の戸は1米四方ほど透明ガラスになっていて、レースが掛けられているものの、廊下等から中が丸見えです。職員には見守りがしやすいと好評ですが、プライバシー上問題なしとしないので、運営推進会議の場で経験豊富な方の意見を伺う等して、改善策を検討しては如何かと思われます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫が必要だと思うところもあるが車椅子でも自由に移動可能であるように空間に配慮して安全に過ごせるように努めている。		